

令和 4 年 6 月 2 日現在

機関番号：32507

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10360

研究課題名（和文）自殺企図者へのシームレスな看護支援～外来・入院・地域を繋ぐ連携と地域移行支援～

研究課題名（英文）Seamless nursing support for patients with histories of suicide attempts :
Cooperation among outpatient, inpatient, and community-based care and transfer
of support to community

研究代表者

寺岡 征太郎（Teraoka, Seitaro）

和洋女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：30626015

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：非構造化面接によって自殺企図歴がある患者（以下、自殺企図者）の体験と、自殺企図者が捉えていた支援内容を明らかにしたが、同時に自殺企図者の「生きづらさ」が浮き彫りとなった。この状況を踏まえ、自殺企図者の地域移行支援における課題の抽出を試みたが、自殺企図者の地域移行支援を阻む要素として多職種連携が機能しない要素が大きいことが分かり、当初の研究計画を一部見直すことにした。最終年度前年度応募研究課題が採択されたため、本研究計画を2021年度基盤研究(C) 21K10728へ発展させ、自殺企図者の「生きづらさ」に対応する多職種協働支援のあり方を系統的に明らかにすることにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナウイルス感染症の流行によって「生きづらさ」を感じている人が増え、それに伴い自殺者数の再増加が懸念される中、自殺再企図抑止の支援を考えるうえで「生きづらさ」への対応といった切り口は欠かせない。自殺企図者の「生きづらさ」に対応する多職種協働支援のあり方を系統的に明らかにするために、本研究計画を発展させることの意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：I conducted unstructured interviews to investigate experiences of patients with histories of suicide attempts and the contents of support perceived by them, but the study simultaneously shed light on “difficulties” in their lives. Based on the findings, I attempted to extract challenges in the transfer of support for suicidal persons to the community, but realized that dysfunction of multidisciplinary cooperation was a major factor that hampered it, and decided to modify part of the initial study plan.

I decided to systematically clarify conditions of desirable multidisciplinary collaborative support catering to “difficulties” of suicidal persons by developing this research plan into a study for the 2021 Grant-in-Aid for Scientific Research (C) 21K10728.

研究分野：精神看護

キーワード：自殺予防 精神看護 地域移行支援 自殺再企図

1. 研究開始当初の背景

平成 10 年以來、自殺者数は 14 年連続して 3 万人を超える状況が続いていたが、平成 28 年は 22 年ぶりに 2 万 2,000 人を下回った。しかし、自殺の背景にある悩みや不安が減少しない限り、たとえ自殺者数が一時的に減少したとしても、中長期的には自殺者が増加してしまうリスクが残される(内閣府, 2013)。また、自殺企図者が後に自殺既遂に至る率は一般人口に比べて高く(伊藤, 2005、日本救急医学会, 2009 他)自殺企図後、救命されたとしても 10 人に 1 人は同様の行為によって命を落とす(高橋, 2002)といわれている。

心理学的剖検(自殺者と関わりがあった周囲の人から情報収集を行い、生前の様子を明らかにしようとする調査手法)によって自殺既遂例の臨床的特徴が明らかにされつつあるが、特に自殺既遂者の女性の約 8 割には自殺企図歴があったことが示されている(廣川, 2013)。この高い再企図率の背景には、支援体制が十分整備されているとは言い難い現状があると考えられる。加えて、自殺企図者に対する断片的な支援は積極的な自殺者数の減少には結びつかず、いかにシームレスな支援体制を整えるのかが重要な鍵であるといえる。

入院・外来・地域生活の場、すべての場面に関わることができる看護職が自殺予防ケアにおいて果たす役割は大きく、具体的かつシームレスな支援・ケアのあり方を検討することの意義は大きい。

2. 研究の目的

筆者はこれまでに、多様な背景をもつ自殺企図者を支援するためのプログラム(包括的自殺再企図予防プログラム)の開発を試みてきたが、本研究では自殺企図者へのシームレスな支援体制の整備を最終的な目標とした。以下 3 点を本研究の目的とした。

自殺企図者を外来場面で看護師が支援する際に必要な要素の抽出
入院療養中の自殺企図者の地域移行支援における課題の抽出
外来・入院場面で自殺企図者を支援するための連携およびケアスキルの確立

3. 研究の方法

目的 では、看護師がどのような支援を行っているのかを明らかにするために、まず自殺企図歴がある患者の体験にフォーカスし、患者を対象とした非構造化面接を実施した。これにより、自殺企図歴がある患者自身が捉える支援内容を明らかにしたが、同時に自殺企図者の「生きづらさ」が浮き彫りになった。この状況を踏まえ、目的 の研究に移行することにした。

目的 では、精神科・救急外来・自殺ハイリスク者(がんや難病をもつ患者等)と関わる機会が多い診療科で働く看護師を対象に、自殺予防ケアに焦点化した地域移行支援の実際を明らかにするための調査を計画した。しかし、その準備段階の過程で、自殺企図者の地域移行支援を阻む要素として多職種連携が機能しない実情などが整理されたため、当初の研究計画を見直すことにした。

4. 研究成果

[3. 研究の方法] で述べた通り、自殺企図者の地域移行支援を阻む要素として多職種連携が機能しない実情の詳細を明らかにするとともに、目的 で浮き彫りとなった「生きづらさ」に着眼する必要性を実感した。特に、自殺未遂者が再企図によって自殺既遂に至るケースが多いことから「生きづらさ」を感じている自殺企図者への手厚い支援が不可欠といえる。「手厚い支援」とは、画一的かつ単調な支援ではなく、包括的かつ多面的に自殺企図者を支える仕組みを指し、多職種連携・協働が鍵となる。

そこで、自殺企図者の「生きづらさ」に対応する多職種協働支援のあり方を系統的に明らかにするとともに、自殺企図者へのより実践的な支援プログラムの作成と精錬化を目指すことにした。

最終年度前年度応募研究課題が採択されたため、本研究計画を次の研究計画(2021 年度 基盤研究(C) 21K10728 『生きづらさを抱える自殺企図者への多職種協働支援～好事例集積と支援プログラム構築～』)へ移行することとした。本研究での実績を踏まえ、自殺企図者の「生きづら

さ」に対応する多職種協働を基盤とした支援の実態調査（good practice 事例の集積）、再企図抑止を目的とした多職種協働支援プログラムの作成と試行を目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 S. Teraoka , Y. Ukai , T. Teraoka
2. 発表標題 Psychiatric Nursing and Ethics in Japan - Identification of the Ethical Challenges Faced by Nurses
3. 学会等名 The 19th WPA World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Seitaro TERAOKA
2. 発表標題 Experiences of patients with a history of suicide attempt and their feelings regarding nursing care provided during hospitalization in Japan
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------